

公開
講演会

入場無料

平成24年 **10月21日** (日曜日)

13:00~14:30

島根県職員会館 多目的ホール

日本と世界の湖沼流域管理

流域ガバナンスの課題と展望

中村 正久 氏

滋賀大学環境総合研究センター特任教授

統合的湖沼流域管理（ILBM）は、湖沼の持つ3つの特徴（1. 長い滞留時間、2. 流域の自然や人間活動の統合性、3. 複雑な湖内の相互作用）を念頭においた、湖沼とその流域を持続的に管理・保全するための計画の枠組みとその実施を意味します。ILBMにおいては、従来のように国や自治体が計画の策定から実施に至るあらゆる局面で主要な役割を果たすのではなく、流域の様々な主体が計画の策定に積極的に関与し、その実施にはパートナーシップ型やネットワーク型の公式・非公式の社会的仕組みが大きな力を発揮する湖沼流域ガバナンスの構築が求められます。ILBMは組織体制、政策、参加、技術、科学的知見、財政を主要なガバナンス要素として組み立てられています。



講師：中村正久氏（滋賀大学環境総合研究センター特任教授）

滋賀県琵琶湖研究所所長、滋賀大学環境総合研究センターセンター長、淀川水系流域委員会委員長、国際湖沼環境委員会（ILEC）理事・科学委員長など数多くの要職を歴任され、その経緯で琵琶湖や宍道湖・中海を含め、世界各地の湖沼・河川流域の取組みの経験を集約する形でILBMプラットフォーム概念の構築に努めてきました。現在、東南アジア、南アジア、中国、アフリカ、ラテンアメリカの現地政府、NGO、研究機関などと協力してILBM推進のワークショップを開催するなど、その取組みを幅広く支援していますが、中にはILBMがナショナルプラン策定の重要な柱となりつつある国も現れています。

連絡先：NPO 法人自然再生センター

〒690-0064 松江市天神町 28 島根大学白濁サロン内 HP：<http://www.sizen-saisei.org/>

TEL：0852-21-4882 FAX：0852-61-0900 E-mail：jim@sizen-saisei.org